

南部地域活性化推進に関する調査研究 要約

（執筆：とよなか都市創造研究所研究員 平田誠一郎）

1. 調査研究の背景・目的

豊中市南部地域の活性化は、本市における重点課題となっている。とよなか都市創造研究所では、平成28・29年度に南部地域に関する調査研究を実施し、その成果は豊中市南部地域活性化基本計画（令和2年（2020年））の検討などに活かされてきた。これらの調査研究では、南部地域に住む人が市内の他地域と比較して自らの地域をネガティブに捉える場合が少なくないことが示されている。しかしながら、そうした評価はアンケート設計によるところもあり、南部地域の特性に応じた設問であればよりポジティブな評価が得られるのではないだろうか。

上記の視点から本研究では、住民主体の地域づくりの一助となるよう、南部地域の良さ、魅力を捉えることを目的とし、南部地域のより一層の活性化に寄与しようとするものである。

2. 問い

- ・ 人口など南部地域の現状はどのようなものであるか。
- ・ 南部地域の特性に応じたアンケートによる地域評価はどのようなものであるか。
- ・ 南部地域の良いところ、魅力とはどのようなものであるか。

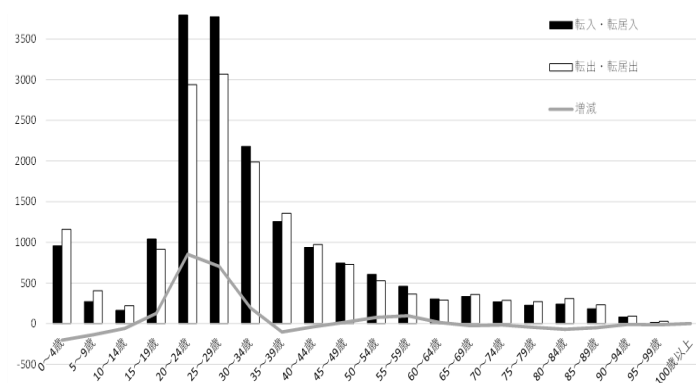
3. 調査方法

- ・ 豊中市民（18歳～69歳）2000人を対象とした質問紙調査（有効回答数789件、有効回収率39.5%）。
- ・ 地域で居場所づくり等の活動に携わる方4名にインタビュー調査。

4. 主な結果

（1）南部地域の人口

南部地域の人口は、減少傾向にあるもののその度合いは緩やかになってきている。老年人口の割合が、市全域（25.7%：令和2年末での住民基本台帳）に比べ32.5%と高い。また世帯に関しては、市全体に比べ単身世帯の割合が高い。他市から南部地域への転入が増加している一方で、市内他地域との転居を合わせると0～14歳、35～44歳などは地域外への移動が超過している。また人口の自然減が多いことが人口減少の要因になっていると考えられる。

図表1 転出入・転居出入による人口増減
（南部地域：平成28年度～令和2年度）

資料：住民基本台帳（各年度末現在）

（２）地域のイメージと人との関わりについてのアンケート

地域のイメージや、南部地域の資源でもある「食・スポーツ・音楽」、社会的なつながりや地域の人との関わりについてのアンケート調査を行った。質問紙の作成にあたっては行動に関する設問に重点を置くなど具体性をより高めるよう工夫した。回答は豊中市内の7地域別に集計を行ったほか、市全体のデータを対象に分析を行った。

【主な回答結果】

- ・ 「新鮮な食材が買える」「食料品を安く買える」という点が南部地域では高評価。
- ・ 「スポーツ」「音楽」について活動の頻度を尋ねたが、南部と他地域で顕著な差は見られない。
- ・ 地域の印象として「懐かしさを感じる」「味のある街だと思う」という点に肯定的評価が多い。また「人のあたたかみを感じる」も市平均を上回る。
- ・ 一般的信頼（一般に人を信用できると思う度合い）は相対的に少ない。
- ・ 地域生活への満足度は、市の平均と比べると低い。
- ・ 主観的幸福度、満足度（個人生活・地域生活）について市全体の回答を対象に多変量解析（二項ロジスティック回帰分析）を行った。分析結果の一部を抜粋すると、「道で会えばあいさつする人が7人以上」などが幸福度や個人・地域の満足度にプラスの影響、「新鮮な食材が買える」「賑わいを感じる」「祭りへの参加」などが地域生活満足度へプラスの影響を及ぼしている。これらの項目はアンケートの集計において南部地域での評価が市平均を上回ったものである。

（３）地域の魅力について「聴く」

南部地域で居場所づくり等の活動に携わっている4名の方にインタビューを行い、南部地域の魅力、良いところについて尋ねた。インタビュー調査の結果から、次の7つの点を地域の魅力を語るトピックとして抽出している。

1. 人への関わり
2. 地域の開放性
3. 個店のネットワーク
4. 事業などのスタートに適した街
5. 日常と観光資源
6. 居場所と拠点
7. 南部（庄内）の歴史と現在

5. 結論

アンケート調査の結果からは「設問を変えればポジティブな評価がより多く得られる」という点について、当初期待していたほど顕著に確認することはできなかった。しかしながら、南部地域での評価が高いポイントもいくつか把握できた。また日常の様々な要素にわたって、生活への満足度や幸福度との関連を見出してきたことは、地域の活性化を考える上での参考になるのではないかと考えている。

上記のアンケート結果とインタビューで得られた視点も合わせると、南部地域の良さを広く共有できる場所があることが大切なのではないかと考えられる。このことは、建設中の南部コラボセンターの機能とも重なる点があると思われ、その意味では現在進行中の活性化施策との符合もあるといえる。